

CDPより「気候変動」「水セキュリティ」の分野でA-の評価を獲得

塩野義製薬株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：手代木 功、以下「塩野義製薬」または「当社」）は、このたび、環境情報開示に取り組む国際的な非営利団体 CDP¹より、「気候変動」「水セキュリティ」の両分野でA-の評価を獲得し、昨年引き続き当社の取り組みが高く評価されましたことをお知らせいたします。

塩野義製薬は当社グループの基本方針ならびに行動憲章の下、取り組むべきマテリアリティ（重要課題）として「環境への配慮」を特定し、「シオノギグループ EHS²ポリシー」に基づいて環境保護に貢献するための中長期的な行動目標を定めるとともに、その実現に向けた活動を推進しています。特に、気候変動、水資源を含む省資源・資源循環、AMR（Antimicrobial Resistance：薬剤耐性）対策に注力しており、今回の調査でも、温室効果ガス排出量の削減、水資源の保護、洪水のリスク低減ならびに AMR 対策の一環として実施している抗菌薬の環境への排出低減を目的とした排水の適正管理などを、高いレベルで継続的に実行していることが評価されたものと考えております。

引き続き SDGs の達成に向け、当社グループのすべての事業活動において協働するパートナーやサプライヤーとともに社会や地球環境を取り巻く諸課題への配慮と対応の強化に努めることで、「企業の持続的な成長と社会への貢献」を両立し、将来にわたって必要な企業としてステークホルダーの皆さまからご認識いただけるよう、企業としての責任を果たしてまいります。

以上

【お問合せ先】

塩野義製薬ウェブサイト お問い合わせフォーム：

<https://www.shionogi.com/jp/ja/quest.html#3>

参考：

1. CDP について

CDP は、企業や自治体を対象とした世界的な環境情報開示システムを運営する国際環境非営利団体です。CDP は、2000 年に英国に設立され、数多くの投資家と協働し、資本市場と企業の調達活動を介して、企業に環境情報開示、温室効果ガス排出削減、水資源保護、森林保護を他に先駆けて働きかけてきました。2021 年度は、運用資産総額が 110 兆米ドルとなる 590 社強の機関投資家と調達総額が 5.5 兆米ドルとなる 200 社の大手購買企業が CDP のプラットフォームを通じた環境情報（影響、リスクおよび機会）の開示を求め、世界の時価総額の 64%強に相当する 13,000 強の企業と 1,100 強の自治体を含む世界の 14,000 強の組織が、CDP を通じて環境情報を開示しました。CDP は、現在、環境問題に関して世界で最も有益な情報を提供する情報開示プラットフォームの一つとなっています。また、「Science Based Targets イニシアティブ (SBTi)」、「We Mean Business 連合」、「The Investor Agenda」、「ネットゼロ・アセットマネージャーズ・イニシアティブ」の創設メンバーです。

詳しくは、次の Web サイトを参照ください。 <https://cdp.net/en>

2. EHS : Environment, Health and Safety (環境ならびに安全衛生)

当社グループの EHS 活動については「環境報告書」および「Web サイト」をご参照下さい。

- ・環境報告書（環境）

https://www.shionogi.com/content/dam/shionogi/jp/investors/ir-library/annual-report-integrated-report/pdf/emvironment_2021_j.pdf

- ・Web サイト

環境：<https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/environment.html>

健康/安全衛生：<https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/society/office.html>